

ここまで来たガン治療

ガンの治療というと3大治療と呼ばれるものを組み合わせるのが現在の治療の主流だと言われています。3大治療とは、1手術 2放射線 3抗ガン剤 の治療です。しかし、ガン治療の最前線では、第4の治療の効果を期待する流れが出来上がっています。その第4の治療とは『免疫治療』のことになります。今回は、ガンの免疫治療についてご案内させていただきます。

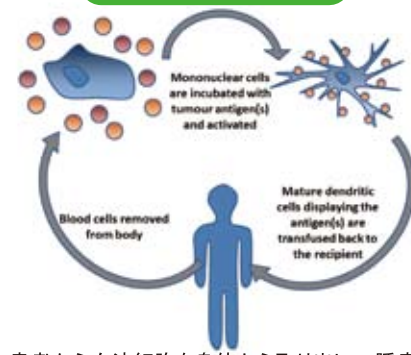
みなさんは『ニボルマブ』というお薬名をお聞きになったことはありませんか？多くの抗ガン剤が欧米で開発されて輸入されたのですが、この『ニボルマブ』



は日本で開発されたガンの治療薬です。さらに、『ニボルマブ』は抗ガン剤ではなく、分子標的薬とか免疫チェックポイント阻害剤とか呼ばれる『免疫治療薬』の一種なんです。このお薬の開発に深く関わった本庶佑（ほんじょ たすく）先生は現在、静岡県立大学の理事長として静岡県で活躍されています。本庶先生の影響で、静岡県がガンの免疫治療研究の最前線になってほしいものだと、私は勝手に夢見ています。ガンの専門医の中には、免疫療法に懐疑

的な方も多いのですが、このお薬は開発段階では悪性黒色腫や肺ガンに効果があるとされていましたが、もっと多くの種類のガンに効果があるのでは？と、さまざまな病院が積極的に治験（臨床検査）をすすめています。さらに患者さんの中には、海外から『ニボルマブ』を逆輸入して自由診療として使う動きもおこっています。今回、たとえとして『ニボルマブ』をご紹介しましたが、効果は期待できるのに厚生労働省の承認が取れないで保険治療が出来ないこんな日本の状態を『ドラッグ・ラグ』と呼ぶことがあります。ドラッグ（薬）のラグ（時間差）です。開発から厚生労働省の承認までに時間がかかりすぎていることを表現しているのです。『ドラッグ・ラグ』は『ニボルマブ』だけの問題ではなく、多くのガン治療に関わる問題でもあります。現在、免疫治療は日進月歩の勢いで改良が進んでいます。インターネットなどで検索すると、免疫治療を手がけている病院がずらっと出てきますが、どこがどう違うか、素人ではほとんど区別が付きません。また、症例も少ないので治療実績を科学的に評価するところまで至っていないのが現状のようです。そんな治療なので、保険治療にも該当せず、そのほとんどが先進医療にも該当しない『自由診療』という

免疫治療のしくみ



がん患者から血液細胞を身体から取り出し、腫瘍抗原を入れて培養して活性化させる。成熟した樹状細胞をがん患者本人に戻すと、免疫反応が惹起される。（ウイキペディアより）

枠組みで行われています。ですが、ガンの三大治療で打つ手がなくなつたガン患者さんが、免疫療法で救われている事例を研修会の症例で確認した私は、お客様がガンで苦しんでいる現状と自由診療で乗用車が1台買えるほどの費用負担が発生する事実の間で、この情報をどのようにお客様にご案内したら良いのか、永い時間悩みました。そして、解決手段のひとつとして、セコム損害保険が開発したガン保険『メディコム』をご案内することにいたしました。

お客様満足度アンケートご記入のお願い

今回、お客様が保険アイマークに何を期待されていて、現在の保険アイマークはその期待に応えられているのか？を確認させていただくためにアンケートを同封させていただきました。

返信いただいた皆様にはもちろん図書カードを差し上げますのでどうぞご協力をお願いいたします。



この保険であつても免疫治療の全てに対応するわけではないなど、パンフレットではお伝えしきれない部分もたくさんございますので、お気軽にお問い合わせください。なお、保険アイマークの代表 村松は日本医療コーディネーター協会のライフケアプラクティショナーとして認定を受けています。セカンドオピニオンなどのご相談の窓口としてもお気軽にお使いください。

相続セミナー盛況の御礼と

『笑顔相続ノート作成セミナー』のご案内



盛況のうちに終了した相続セミナー

平成27年11月14日（土）焼津市文化センター会議室をお借りして『保険アイマーク わかりやすい相続セミナー 相続はちよつとした準備で乗り越えられる』を開催いたしました。当日は藤枝市固定資産税評価委員の税理士、増田和宏先生と保険アイマークの村松トークセッション形式で進行了ました。ご参加いただきました皆さん、ありがとうございます。ご記入いただいたアンケートに、『分かり易かった』とか、『人

に勧めたい内容だった』と記入された方がたくさんいらっしゃいました。セミナーの中で、残された家族に想いを伝えることの大切さをご案内しました。想いを伝える方法のひとつとして、相続診断士協会がプロデュースした『笑顔相続ノート』がごございます。一般的なエンディングノートとはひと味違うノートです。その書き方などをご案内する『笑顔相続ノート作成セミナー』を開催することにしたしました。少人数での開催で、相続セミナーにご参加いただいた方を優先としますので、若干の参加枠しかございませんが、参加を希望される方は是非お問合せください。

INFORMATION

保険アイマーク主催セミナー

これだけは伝えたい
『笑顔相続ノート作成セミナー』

平成27年12月1日（火）

参加費・教材費含め今回は無料で行います。

会場 保険アイマーク焼津店 時間 13:30～15:30

定員 8名様（定員に達したところで受付を終了します）

お申込みは ☎0120-719-194 お電話にてお願いします。

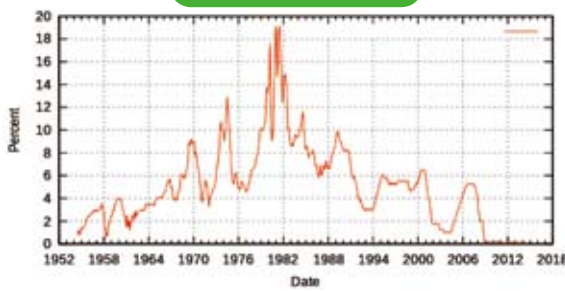
エコノ夜話

『水は低きに流れ、マネーは高きに集う』



リーマンショックを機会に、先進国の金利が日本をまねて超低金利となって久しい状況です。超低金利でなおかつ国家が紙幣を印刷し続ければ、バケツからあふれた水が一気に広がるように、マネーが世界中を駆け巡ります。そんな流れを日本銀行の黒田総裁はまだしばらく続けるだけでなく、さらに緩和できる可能性を探しているようにさえ私には映ります。水は低きに流れますが、お金は金利の高いところに集まります。孟子の言葉にまねて自作した格言です。『マネーは高きに集う』超低金利から脱出を試みている国。それが現在の米国です。日銀に相当するFRBは今度こそ金利上昇を決定するぞ、と何度も雰囲気を作りながらも今現在、金利を上げることが出来ない状態です。なぜなら、米国が金利を上げようとすると、世界中に散らばったマネーが米国に磁石のように吸い寄せられるからです。そうなると、発展途上国は大変です。発展途上国の経済が潤いを保っているのが、超低金利で行き場を無くしたマネーのおかげであり、米国が金利を上げるとそのマネーが元のバケツ（米国）に戻ってしまうからです。

米国金利の推移



今までの米国はそんなことはお構いなしに金利をコントロールしてきましたが、今回はどうも様子が違います。世界の経済が不安定になるとIS（イスラミック・ステート）のような異分子が猛発生することを恐れているのかもしれませんが。あと考えられるのが、中国経済に対する配慮。リーマンショックの時、中国は自国の経済を立て直すために56兆円にも及ぶ規模で景気刺激策を展開しました。あの時の中国の動きが無かったら、世界経済は未だに危機的状況を抜け出していないのかもしれませんが。今、米国が利上げに動くとは一番影響を受けるのは中国かもしれません。中国の政治は経済成長によって支えられています。米国は今、中国が不安定にならないように動向を探りながら金利上昇の絶妙なタイミングを見計らっているのだと思います。米中は南沙諸島では極めて緊張していますが、経済においてはどちらか一方だけが勝つという図式を描くのが困難なほど、世界経済は一体化を強めているわけです。